

9月8日（金）のユネスコ国際識字デーには、
デジタル・リテラシー（デジタル世界の識字）とは何かについての議論を

開倫塾

塾長 林明夫

1. (1) 毎年9月8日は、「ユネスコ国際識字デー」です。
(2) パリにあるユネスコ本部では、2017年度の「国際識字デー」の統一テーマを「Literacy in a digital world」として活動を展開、9月8日（金）には、このテーマでの国際シンポジウムを開催いたします。
(3) 開倫ユネスコ協会、開倫ユネスコ学校でも、9月8日（金）の「ユネスコ国際識字デー」の活動として、「デジタル世界のリテラシー（識字、読み書き）とは何か」をテーマに議論を深めることを提案させていただきます。

2. <「デジタル世界のリテラシー」とは>
<例えば>
(1) インターネットで検索し、調べることができること、調べたことを理解することができること。
(2) インターネットで、イベントへの参加申し込み、公的な機関やチケットなどの手続きを行うことができること。
(3) Eメールを用いて、報告、連絡、相談など、「報・連・相」ができること。

3. (1) 電話やファックス、計算機を経て、メールやインターネット、AI(人工頭脳)、IoT、3D などなどが、「ムーアの法則」が示すように指数関数的に国境をこえて発達するのが、デジタル世界です。
(2) このデジタル世界でのリテラシー、識字、つまり、基本的な読み書きとは何かを考えることは、時代に即して、人間として能力強化を考えるうえで極めて大切です。
(3) 幼稚園や保育園、小学校、中学校、高等学校、大学などの高等教育機関など、様々な段階の教育で何をどのように学ぶべきか、さらには、生涯にわたって何をどのように学ぶべきか、大いに議論をしてまいりましょう。

よろしく願いいたします。

2017年8月28日（火）7時28分